

金券ショップの使い方

第7期 OG 中川 美穂

今年のOB会幹事である同期の菊盛さんに3度目くらいの「一生のお願い」を使われ、連休中急遽帰ることになった母方の実家でこの文章を書いています。さて、引き受けたものの書くネタが思いつかず、参考に過去の会誌を見返そうにも電波が無い。(余談ですが、田舎に来るとドコモの電波の良さを痛感します。iPadも早くドコモで出していただきたいですね。決して回し者ではございません。) 菊盛さんおすすめの(スカイドライブ上の)過去の写真でスペースを稼ぐという荒技も、3G電波1本という心許ない状況では現状使えない。というわけで、唐突ではありますが今回の田舎行きに際して学んだ金券ショップの話について書きたいと思います。



大学のクラスも、ゼミも、論文チームも、役職(入ゼミ)も、みな同じな菊盛さんと。大学3年の頃(著者は左)

まず、今回の帰省ですが、身内の葬儀で久しぶりに秋田に来ました。これまでは車で来ていたため、人生初の秋田新幹線というものに乗れ、新青森へ。青森?と思われる方もいるかもしれませんが、秋田は広いので青森から行った方が早い場合もあるのです。初めて知りましたが。さて、その新幹線の切符の手配ですが、少しでも安く買うために会社の近くの金券ショップで調達しました。はい、この切符購入記がこのエッセイの本題です。

金券ショップの入口の前でそういえば現金を持っていなかったことに気付く。が、銀行に寄るのが面倒なためダメ元で店のおじさんに「カード使えますか?」と質問。少々おネエ口調で「利益がすこーししか



森永乳業(株)にて卒論発表を行う在学時代の著者

出ないから使えないの！ こういうお店はどこも現金だけなの～ごめんなさいね」と断られる。なるほど、1つ賢くなりました。仕方がないので現金は後ほど用意するとして、肝心の切符が売っているのかという問題。おネエのおじさんに「お金後で持ってくるんで。ところで秋田新幹線って取り扱ってます？」と質問する。外の看板の「格安新幹線！ 東海道、山陽、上越、東北」の字を見た時から薄々勘付いてはいたが、案の定、「いつ使うの？」

「明日です」「あらやだー、秋田新幹線は買う人少ないから大宮の本店から取り寄せなの、もっと早く言ってくればいいのに！ 今日も2枚売ってね、昨日も4枚売って今日はもう無いの。大宮にはいっぱいあるのに！」とのお返事。どうやらそのレベルの売り上げでは常備は認められないらしい。これまた仕方がないので諦めようとしたところ、「乗車券そのものは無いけどね、株主優待券があるからね、これでもそこそこ安く買えるよ。みどりのとこで。」と助言をもらう。よくわからないのであまり難しいことはしたくないんだけどな、と正直消極的だったが、おネエおじさんのトークを遮るわけにもいかず、とりあえず話を聞く。要約すると、JR東の株主優待券があるので、それを持ってみどりの窓口に行けば切符を買う際に割引がきく、というものらしい。なるほど。また1つ勉強になりました。なお、またも余談だが、金券ショップで扱っている新幹線切符はほとんどが回数券のバラ売りだそうだが、それはなんと、ゴールデンウィークや年末年始などの繁忙期には使えないらしく、その時期には株主優待券が飛ぶように売れるらしい。株主優待券方式は割引率では少々劣るそうだが、別の金券ショップに行くのも面倒であり、そこそこ安く調達できるようなのでそれで妥協した。が、手持ちの現金が無いので近くの銀行へ。お金おろしてきますと伝えて店を出る。スライド式のドアを手で閉めようとしたら「ほっとけば閉まるから！」と後ろから指摘された。そうなんです、すみません。お金を持って再び金券ショップのスライドドアを開ける。放っておけば閉まるが放っておいても開きはしないイマイチな



AERA (2013年7月22日号)の特集記事に最強の「統計社員」として掲載された著者

ドアである。先程お世話になったおネエおじさんに、「さっきの株主優待券お願いします」と伝えるとご機嫌な様子で「4枚で8,400円ね～」と言われた。ちなみに4枚というのは、1枚で2割引になる券を1度に1人2枚まで使えるとのことなので、今回は私と弟の分で4枚購入したためである。ATMから頂戴してきたのかそうでないのかはわからないが某赤い銀行の封筒に4枚入れてもらい、とりあえずこの店でのやり取りは完結した。去り際、「このお店、初めてでしょ？ これからもよろしくね～ お気をつけて～」と優しく送り出してくれた。実は、1度売りに来たことがあり、おネエおじさんとも会話をしたことはあるのだが、忘れられていても、特に気にはならなかった。いろいろと役立つ情報を優しく教えてくれたおじさんにはとても感謝しているので、また遠方に行く機会があればぜひ使わせてもらおうと思う。

こうして株主優待券を手に入れ、渋谷駅のみどりの窓口で無事に秋田新幹線の切符を購入できた。自由席で、とお願いしたら秋田新幹線は全席指定ですと言われてしまった。ここでも知識が増えた。

そんなこんなで新幹線に乗り、新青森で東北の冬の威力を体感し、祖母の家でこのエッセイを書いておきます。金券ショップを使ったことのない方、ぜひ1度足を運んでみてください。職場の近くの金券ショップと書きましたが、私の職場は田町ですので、つまり大学の近くの金券ショップです。田町までの道程にありますので、ぜひ探してみてください。残念なことに、札幌でチーズを配る使命があるため今回のOB会には参加できませんが、私のこの体験がみなさまのお役に立つ機会があれば光栄です。そして次回はもう少しまともな文章を提供できるよう、引き出しを増やしておきたいと思います。



同期の結婚式2次会にて久しぶりに集合した小野ゼミ生と
(著者は最後列右から2番目)